

KAMAKURABORI



東京文化財 市
2025 鎌倉
CULTURE CITY OF EAST ASIA
2025 KAMAKURA

発行：鎌倉市 TEL:0467-23-3000

この伝統マークは、経済産業大臣指定
伝統的工芸品のシンボルマークです。

日本遺産

1 鎌倉彫工芸館 伝統鎌倉彫事業協同組合

鎌倉彫製品の販売、鎌倉彫のオーダー製作、漆塗り加工のご依頼、道具・材料の
販売の他、鎌倉彫体験教室(要予約)を行っています。また、毎週土曜日の午後
には鎌倉彫の職人が在館して皆様のご質問にお答えしております。
各事項、お気軽にお問合せください。

■所在地：〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜3-4-7
■TEL：0467-23-0154 (FAX:0467-23-9816)
■交通：JR横須賀線「鎌倉駅」から徒歩10分/
江ノ島電鉄「和田塚駅」から海に向かって徒歩1分



2 鎌倉彫会館

若宮大路沿いに建つ鎌倉彫の総合施設です。
1Fショップ、ギャラリー、2F・4F鎌倉彫教室、
3F鎌倉彫資料館。

■所在地：〒248-0006
鎌倉市小町2-15-13
■交通：JR横須賀線/
江ノ島電鉄「鎌倉駅」から
徒歩5分



鎌倉彫工芸館

800年の歴史を持つ伝統工芸、鎌倉彫を紹介する資料館
です。室町時代から現代までの作品約50点と制作工程の
動画をご覧いただけます。毎月第1・4土曜日に体験教
室(予約不要)を実施しています。

■TEL:0467-25-1502

鎌倉彫教室

鎌倉彫の教室が毎日開催されています。丁寧な指導方法
で初心者でも楽しく彫りを学べます。

■TEL:0467-25-1500

ショップ 倶利伽藍

ショップではオリジナルデザインの器や職人たちによる
鎌倉彫製品を販売しています。

■TEL:0467-33-5751

こちらから

□ 鎌倉彫の制作風景動画
□ 店舗・工房一覧
□ リーフレットWeb版
をご覧いただけます。



「もっと！
鎌倉彫を
知ろう！」

鶴岡八幡宮
鎌倉駅
若宮大路
和田塚駅
JR横須賀線
由比ヶ浜駅
由比ヶ浜
材木座海岸
江ノ島電鉄







鎌倉彫



KAMAKURABORI

時を超え、現代に息づく伝統工芸品

陰影ある彫りの味わい、深みある漆の色調、そして、日本古来の素材である木の温もり。これらが見事に調和した伝統的工芸品、「鎌倉彫」。

宋の影響を受け、仏具として作られはじめて以来、800年の時を超えて受け継がれ、気品と風格はそのままだに暮らしに溶け込み広く愛されるようになりました。伝統を守りながら、つねに現代に息づく物づくりを目指す鎌倉彫は、誇るべき工芸品としていまも進化を続けています。

鎌倉彫のできるまで

木地づくり

材は北海道産の大径木の桂が最良とされ、製材、自然乾燥を経て、墨付け、カット後、ロクロで荒挽き、風通し、仕上挽きされる。この工程に1年から数年かかる。

多品種の木地製品

盆、皿などの挽き物のほか、指物、刳物、ルーター加工等の木工技術により、生活様式が多様化に合わせた、多品種の木地が作られる。

絵付け

製品に合わせて文様の図案を作り、青竹という染料で薄い和紙に写し取り、軽く湿らせた木地に押し付け下絵を転写する。

たち込み

写し取った下絵に沿って、小刀または平刀で落とす。これにより、たち込みの角度により、図の遠近感やボリュームなどを表現する。

際取り

たち込んだ線の外側を、小刀または平刀で落とす。これにより、文様部分を浮き上げることができる。

刀痕

文様部分を各種の刀で肉付けし、地の部分には文様の彫りと調和した刀痕をつける。意識的に地に彫り跡を残すのは、鎌倉彫のひとつの特徴。

木地固め

漆の木から採取したそのままの樹液を生漆と言い、この生漆を全面に塗り、しみ込ませて塗膜の基礎を作る。

蒔き下地

生漆を同じ厚さに塗り、炭粉または砥の粉を蒔き付け、乾いた後で研ぐ。これにより彫刻面の凹凸を十分に生かした滑らかな塗上がりになる。

中塗り

黒漆で中塗りを2回行う。彫りの谷などに漆がたまるように細心の注意を払い、さらに砥石やサンドペーパー、炭灰などで研ぐ。

上塗り

透明度の高い透漆(くろめ漆)に朱色の顔料をまぜ合わせた、上塗り漆を塗る。

乾口とりマコモ蒔き

上塗り後、生乾きで表面が落ち着いたときを見はからい、マコモ粉を蒔き付ける。乾いた後、よく磨くと、全体に古色がかった落ち着いた色調になる。これが現代の鎌倉彫の代表的な塗りの技法。

研ぎ 摺漆

蒔いたマコモが乾いた後、研ぎ出し、彫りに陰影を出す。荒れた肌に生漆を薄く塗り付け、布で良く拭き取る。これを2〜3回繰り返して艶を出し完成。

鎌倉時代

鎌倉彫の歴史

禅宗寺院から生まれた鎌倉彫

13世紀半ばより、禅宗の移入に伴い、宋から伝えられた美術工芸品の中に、「堆朱」と呼ばれる盆、大香合などの彫漆品がありました。それらは漆を幾重にも塗り重ねた面に精巧な文様を彫刻した、大変高価で貴重なものでした。これに影響を受けた仏師たちがその意匠をもとに、新たな木彫彩漆の仏具を作りはじめたのが鎌倉彫の始まりです。

前机／建長寺蔵

須弥壇／建長寺蔵

室町時代

仏具として作られた鎌倉彫

室町時代にかけて、数々の優品が生まれました。代表的な作品として、円覚寺(神奈川県)の屈輪文大香合、鎌倉国宝館(神奈川県)の獅子牡丹文硯台、中尊寺(岩手県)の椿文笈があります。この時代の公家の日記『実隆公記』には「鎌倉物」という記載があり、その後、これら鎌倉ゆかりの木彫彩漆が一般的に鎌倉彫と呼ばれるようになったともわれています。

屈輪文大香合／円覚寺蔵

獅子牡丹文硯台／鎌倉国宝館蔵

江戸時代

茶道の一般化と鎌倉彫

江戸時代、茶道の普及とともに、茶入、香合、香盆が多く求められるようになりました。この頃は精緻な蒔絵が発達を遂げましたが、一方で雅味のある鎌倉彫も人々に好まれ、元禄7年(1694年)に出版された『萬寶全書』という茶道具の手引書には「鎌倉彫」の名が明記されています。そんな時代の中で、侘び、寂び、粹など、江戸文化の香りを持つ鎌倉彫の作品も生み出されました。

牡丹文茶入／鎌倉彫資料館蔵

水鳥形香合／鎌倉彫資料館蔵

明治・大正時代

生活工芸品としての鎌倉彫

明治初年(1868年)、新政府の神仏分離政策のもとで拡大した廃仏毀釈運動により、仏師たちは仕事を失いました。これを転機に仏像制作から生活の中で使われる工芸品としての「鎌倉彫」に活路を見出した仏師が、後藤齋宮と三橋鎌山の2人でした。明治22年(1889年)、横須賀線の開通とともに鎌倉は別荘地として栄え、訪れる人々への日用品やお土産として作られるようになり、現代の鎌倉彫へと発展していきます。

蓮花文供物皿／個人蔵

ありすのわさくもんこぼ／有栖川菊文小箱／個人蔵

そして、現代へ

高度成長期を経て生活にゆとりが生まれた昭和。大量生産の工業製品に対して手仕事のあたたかさが求められ、鎌倉彫も多くの人に愛用されるようになりました。また、趣味としてカルチャー教室でも人気を呼び、愛好者は全国に広がりました。昭和54年(1979年)、当時の通商産業大臣から伝統的工芸品としての産地指定を受け、その後伝統鎌倉彫事業協同組合を中心に後継者の育成や新しい製品づくりが積極的に行われています。

鎌倉彫の将来に願いを込めて

鎌倉彫の将来に願いを込めて

鎌倉彫には素晴らしい古典の作品が数多く残されています。その時代ごとの職人が考案し後世に残そうとした作品の魅力は、我々見る者に強く訴えかけます。しかし、そのような作品に甘んじているだけではいけません。伝統に生きる今の作り手が、時代の流れを読み、それに合わせた進化をしなければ長く続いた歴史もやがて消えて行く運命にあります。先人の創意や技術と真剣に向き合い、「鎌倉彫」の伝統を後世に残したいとの熱い思いが有ります。時代に即した新しい製品作り、その事こそが未来に繋がる道だと確信しています。